

秋厚労ニュース

鹿角で住民説明会

産婦人科集約

9月29日（土）、鹿角市コモッセにて市主催の「産婦人科集約に関する住民説明会」が開かれ、住民など約50人が参加しました。



病院・市などが10月以降の体制について説明

説明会では、大館市立総合病院・かづの厚生病院・市・子ども未来センター・鹿角の産婦人科を守る会が、報告・説明しました。

大館市立総合病院の吉原院長は、「片道30分の通院はハンディキャップだと思いが、安心して分娩してもらえるよう準備している」と発言。かづの厚生病院の吉田院長は「住民の皆さんには不便をかけて申し訳ない」と話し、10月から週4

回外来診療を行うこと、母乳外来の継続、初期の母親

市「出産できる体制をめざす」

鹿角市いきいき健康課は「妊産婦へのアンケートや住民集会での意見から、交通費・宿泊費を助成する。人によって不安の内容は異なるので、相談の場として『子育て世代包括支援窓口 p i k e p i k e (ピケピケ)』を開始。皆さんと

教室は鹿角で受講できることなどを説明しました。

ツアーや冬の屋内運動会、親子で遊べる企画を実施。外出しにくい冬も集まって相談できる場づくりなど、鹿角らしく切れ目のない支援を模索しています。鹿角

市民の願いは「医療の充実」

住民からは「妊娠したと思ったら、直接大館市立総合病院へ行けば良いのか?」「緊急搬送の場合、鹿角市から大館市まで何分かかるか?」と質問が相次ぎました。

地域で医療を 考える第一歩

一緒に考えながらやっていた」と話しました。市内で出産できる体制に戻すため、各所と連携して情報収集中。全国の大学病院などの医師へダイレクトメールを送付予定です。子ども未来センターは、子育て世代の不安解消・交流のため、専門家から話を聞いたたり、バス

「市民の願いは、市でお産ができることと、医療の充実。それに向けて市や住民の会が頑張っている。医師の体制がどうなれば、市でお産ができるのか?」との質問に、吉田院長が「常勤医師3人と助産師が必要。そう簡単ではないと思う」と率直に答える場面もあり

大館・鹿角地域の分娩集約のように、地域医療の縮小は、残念ながら全国各地でも「よくあること」です。多くの地域では診療科が増減しても、あらためて住民へ説明はしません。しかし地域医療を充実させるために重要なのは、住民・行政・病院と一緒に医療について考え、知恵を出し合うこと。鹿角市の住民説明会は、その第一歩といえます。